

橋梁とその空間に関するイメージと連想について

金沢大学工学部 正会員 ○城戸 隆良
金沢大学工学部 辻 香織
金沢大学工学部 正会員 近田 康夫

1. はじめに 橋梁とその周辺景観の移り変わり¹⁾について考えるために、橋梁と周辺景観についてイメージ²⁾をとらえてみようとした。今回は、主に金沢市街中心部の河川に架かる橋梁12橋とその橋から見たパノラマ景観について調べようとした。それらの橋梁景観画像を被験者に提示し、景観から受けるイメージをアンケート調査して、どのように感じるかを調べようとした。本研究は、橋梁とその周辺景観について、橋梁景観のあり方について、風土、感性、景観構造に関する情報を得ようとした。

2. 調査方法 1つの方法として、橋梁景観の提示をしないで橋梁とその空間のイメージについて連想する事柄を自由な記述により得る方法（自由連想法）をとった（約112名（大学生、女性内21名））。

また、主目的の調査では、具体的な橋梁景観画像（橋梁側面全体を含む中景）を被験者に提示（デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り組み、液晶プロジェクターを介してスクリーンに100インチ程度の大きさで提示）し、約90名（大学生、女性内11名：視覚的な範囲を考慮しほぼ半数ずつに分けて調査）から主要な形容詞対や用語を設けたSD法によるアンケート調査を行った。また、表示画像の景観構成要素とその面積比率、出現数を調べた。つぎに、橋梁から見た周辺景観についてのアンケート調査では、各橋上の中央付近における360度のパノラマ画像を作成し、それらを同様に提示（この場合、Live Picture Viewer をアドインとして、パノラマを少しずつ回転させながら表示）し、自由連想法（主要な形容詞や用語のサンプルに90語程度を与えたが、記述方法や用語は自由）により感じることを記述してもらった。

3. 調査結果 まず、最初の橋梁とその空間のイメージと連想についての自由連想法では、各自の記述を分析するのであるが、それぞれが独立で別個のイメージと連想の回答であり、回答は多種多様であり、結局、上位または類似と思われる項目毎に集め、新規の項目が出てきた場合に分類、追加し、または、各項目を関連づけた。ほぼ、要約して幾つかの要因毎にまとめてみたのが、図1である。このように別個の記述回答でも、それぞれの意見をまとめて見ると橋梁とその空間に関して広く多岐の項目が得られる点で興味がある。

つぎに、橋梁景観（12橋分の画像を提示）についてのSD法によるアンケート結果では、そのプロフィ

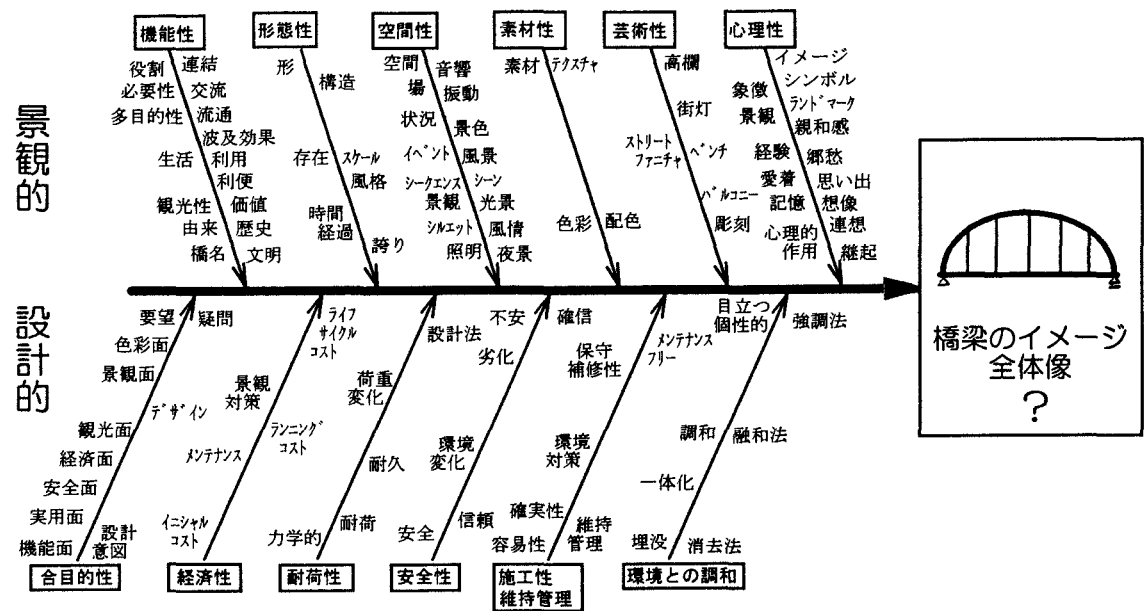


図1 橋梁のイメージについての要因抽出

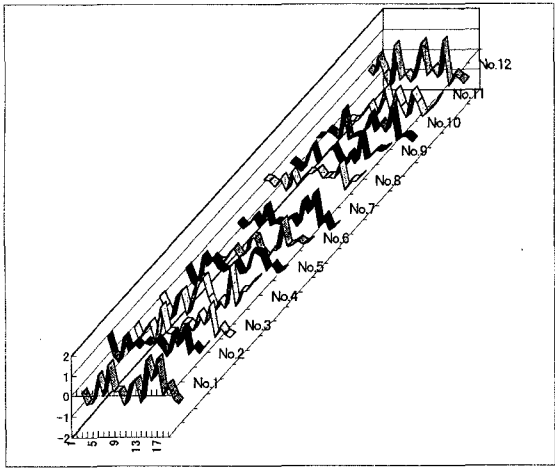


図2 プロフィール分析 (12 橋分の比較)

ール（平均値に関するもの）は図2のようになった。それぞれの橋梁（No.1～No.12）によって、その反応が違っているのがわかる（縦軸数値との対応：かなり±2，やや±1，ど

ちらでもない0，横軸は各評価語対の並び：一例として図3（No.10の結果）参照）。表1 No.10の景観構成要素（面積比率，出現数）
なお，図3に提示した橋梁景観画像の景観構成要素と面積比率（%），要素出現数を表1に示す。図3の結果を見ると特徴的なのは，美しい，バランス，安定感，魅力的，調和，好ましい，女性的，軽い，洗練，連続的，自然的，親しみ，潤い，開放感，軽快，などの指向があり，また，ダイナミックでない，古風，地味，などの指向が見られる。よって，平均的には古風で地味ではあるが，調和した開放感のある親しみやすい景観に受け取られるものと思われる。このように実存する景観構造の特徴を考察する意味でも各感性の抽出は意義深い。

つぎに，周辺景観（橋梁No.10 橋上からのパノラマ画像提示）での自由連想法の記述結果についてふれてみる。多くの用語が記述されたが，それらにあるまじりに要約してみると，暖かい雰囲気，開放的な，古びた，自然的な，好感的な，新しさなどに関する用語が選択あるいは記述された。中には負のイメージの記述も見られた。このアンケートによっても多様な用語が得られ，前者，後者ともほぼ類似した評価が得られるなど，どちらの結果にも景観の特徴を示す記述が得られ，感性評価のための基礎資料を得ることができた。

4. あとがき

本研究により，橋梁のイメージ，および，個々の橋梁景観について感性アンケート調査を行い，各結果の分析を進めた。その結果，幾つかの示唆を得た。アンケートの中の記述を見ながら，類似することを大まかにまとめると，景観創出において，周辺環境との関連性を考え，文化性，歴史性，風土形成，景観形成など，より深い配慮が必要であることが感じられた。よりよい景観，環境形成を図るには景観性，快適性，精神性の追求が必要であろうと考えられた。今後の課題は，架け替えに伴う橋梁景観についてその景観推移に伴い今回と同じアンケートを実施し，比較ができればと考えている。

最後に，感性アンケート調査にご協力を頂いた多くの方々（学生諸氏）に，ならびに，橋梁景観画像資料作成については平成11年度科学研究費補助金（奨励研究(B)）の助成を受けたので，深く謝意を表します。

参考文献

1)城戸隆良：金沢市街地橋梁の現状診断とテーマ性探究，論集 開発と保全，第14号，(社)地域振興研究所，1984-5。
2)城戸隆良・近田康夫・小堀為雄：橋梁に関するイメージの分析例，土木学会中部支部研究発表会，I-28，1994-3。

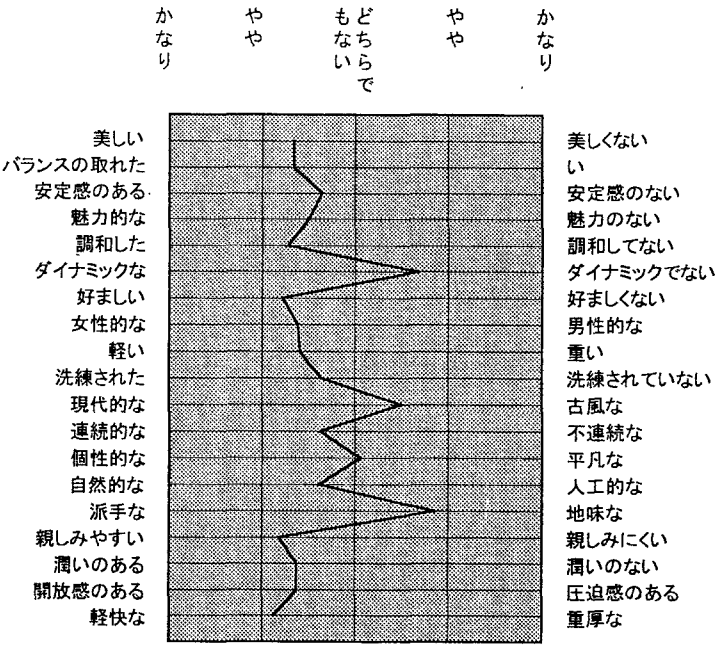


図3 プロフィール分析 (No.10の結果)

	面積(%)	出現数
空	38.46	1
橋	2.38	1
樹木	7.49	11
山	0.53	1
河川	18.98	1
護岸	23.06	2
家	1.35	2
ビル	7.56	6
看板	0.04	1
他の橋	0.16	1
	100.01	